

和歌山だより

2024年 第183号
(令和6年)

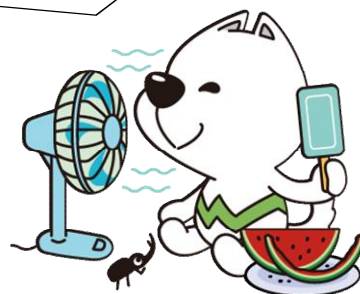


廣八幡宮の風鈴（広川町）

透明なガラスに様々な模様があしらわれ、見た目も涼しげな夏の風物詩の一つ「風鈴」。年々厳しさを増す、湿度が高く蒸し暑い日本の夏。冷房を適切に使用するのはもちろん、秋に鳴くスズムシの声に見立てたと言われるその音色にも涼を感じながら元気に乗り切りましょう!!（写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟）

CONTENT

- | | | |
|---|----------------------|------------|
| 1 | 知事メッセージ | p. 1 |
| 2 | 和歌山県政トピックス | p. 2 ~ 17 |
| 3 | お知らせ | p. 18 ~ 30 |
| 4 | ふるさと歳時記 | p. 31 |



龍神地鶏と龍神コッコ

皆さん、龍神地鶏をご存じですか。龍神地鶏は田辺市龍神村地域固有の希少な日本鶏です。300年以上前から飼育されてきましたが、近親交配が進み、遺伝的な多様性が低下したため、絶滅が危惧されています。県の養鶏研究所では、2012年からこの貴重な遺伝資源である龍神地鶏を保護し、保存する取組を行っています。

養鶏研究所では、純血種の保存に加えて、商業種の「ロードアイランドレッド」との交配により、「龍神コッコ」という新たな卵用地鶏を開発しました。龍神地鶏は普通の鶏より体も卵も小さいので、龍神コッコの卵も小ぶりです。しかし、卵黄比率が高く、うまみ成分のグルタミン酸が一般卵よりも多いので、濃厚な味わいでコクがあり、後味も良く卵かけごはんにぴったりです。2021年から、龍神村で飼育が始まり、卵が販売されています。

卵の販売に合わせて、龍神村のケーキ屋さんでは「龍神コッコのプリン」も売りだしました。バニラもカラメルも使っていないくて、卵本来の味と香りが楽しめる逸品です。

この背景には、龍神村商工会をはじめ地域の各種団体や養鶏農家で作る「龍神コッコ普及協議会」の存在があります。龍神村では、この他にも、「龍神村ドラゴンミュージアム」や「龍神生しいたけ」など住民の力で、地域おこしが進んでいます。日本三美人の湯「龍神温泉」に加えて、新しいことに挑戦し続ける地域の皆さんには敬意を表します。

タウンミーティングで県内を回ると、同じように活発な地域おこしをしている場所がたくさんあり、パワーをいただいています。

和歌山県知事 岸 本 周 平



5/27 令和6年和歌山県知事表彰式にて

●第 35 回全国「みどりの愛護」のつどいを開催しました

6 月 1 日に秋篠宮皇嗣同妃両殿下御臨席のもと、全国の公園緑地の愛護団体をはじめ、河川等の愛護や道路の愛護活動を通じて緑の保護育成を行っている団体、地域の緑化・緑の保全団体等の緑の関係者など約 900 人が一堂に集い、第 35 回全国「みどりの愛護」のつどいを開催しました。



秋篠宮皇嗣同妃両殿下御臨席の様子

全国「みどりの愛護」のつどいは、「みどりの日」制定の趣旨を踏まえ、我が国の貴重な緑を守り、育て、緑に親しむとともに、その恵みに感謝し、豊かな心を育むことを願って、1990（平成 2）年から開催されています。

和歌山城ホールで実施した式典では、「みどりの愛護」活動事例として、特定非営利活動法人花いっぱい推進協議会（和歌山市）が活動を紹介しました。2001



知事表彰授与の様子

（平成 13）年に特定非営利活動法人として設立した同団体は、道行く人のために花と緑を育て、温かみのあるまちづくりに取り組んでおり、JR 和歌山駅西口花壇等の除草・剪定・植栽・水やり等のほか、市役所広場前等で毎年ガーデニングコンテストを実施するなど、市民が花と緑への関心を深める機会の創出に努めておられます。

その後、花と緑の愛護に顕著な功績のあった団体を表彰する第 35 回「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰では、全国 97 団体（うち、県内 23 団体）が表彰されたほか、知事からは第 35 回全国「みどりの愛護」のつどい記念和歌山県都市緑化功労者知事表彰として、県内 36 団体に対し感謝状をお贈りしました。

そして、秋篠宮皇嗣殿下は、おことばの中で、能登半島地震の被災者を見舞われるとともに、防災と減災の重要性、緑が防災に果たす役割や緑を守り育むことの大切さに思いをいたし



おことばを述べられる秋篠宮皇嗣殿下

ながら、それを継承していく必要性を感じていることなどを述べられました。

最後に、開催市の小学校で特にみどりの愛護の活動が盛んな和歌山市立中之島小学校と和歌山市立三田小学校の代表児童2人が、「私たちは、みどりと触れ合い、思いやりのある社会と平和な地球を目指します」などと誓いの言葉を述べました。



誓いの言葉を述べる児童

和歌山城公園に場所を移して実施した記念植樹では、初夏の青空のもと、秋篠宮皇嗣同妃両殿下はソメイヨシノを植樹され、知事はウバメガシを植樹しました。

なお、5月31日に来県された秋篠宮皇嗣同妃両殿下は、県立南紀はまゆう支援学校（上富田町）、稲むらの火の館、広村堤防（広川町）を視察されました。翌6月1日は、本式典に御臨席の後、あらぎ島展望所等（有田川町）を視察され、



記念植樹の様子

帰路につかれました。両殿下は、現地での説明に熱心に耳を傾けられ、穏やかな優しい表情で御質問やお声がけをしてくださいました。

みどりは、私たちの暮らしに豊かさや安らぎをもたらし、自然との触れ合いの場を与えてくれる貴重な存在です。本大会を契機として、都市緑化意識の高揚や緑豊かな潤いのある住みよい環境づくりの取組を一層推進し、古く神話に日本の山々に樹木の種をまき青山となした神が鎮まると記された「木の国・和歌山」から「みどりの愛護」の輪を全国各地に広げていきたいと思ひます。

■県内御訪問・御視察の様子



県立南紀はまゆう支援学校で生徒代表と懇談される秋篠宮皇嗣同妃両殿下



広村堤防で生徒の説明をお聞きになる秋篠宮皇嗣同妃両殿下



あらぎ島展望所であらぎ島景観保全保存会会長の説明をお聞きになる秋篠宮皇嗣同妃両殿下

●「令和6年和歌山県知事表彰式」を開催しました

「和歌山県知事表彰」は、公共の福祉増進に大きな功労があった方々やその他広く県民の模範となるべき方々の顕彰を目的として、1953（昭和28）年に創設したもので、今年で72回目を迎えました。前回までに延べ5,326名、316団体の方々を表彰してきました。

5月27日に「令和6年和歌山県知事表彰式」を開催し、54名6団体の方々を表彰しました。

式典では、司会者から受賞者の方々のお名前を紹介し、各功労部門の代表者の方に知事から表彰状をお贈りしました。続いて、暮らしの安全及び向上の分野で功労のあった南海電気鉄道株式会社代表取締役会長兼 CEO の遠北光彦さんあちきたてるひこに受賞者を代表して御挨拶いただきました。



表彰状授与の様子



遠北会長による代表挨拶の様子

遠北会長は挨拶の中で、公共交通分野におけるコロナ禍の困難な時期を振り返るとともに、和歌山の魅力を世界中に発信できる絶好の機会である「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録20周年や2025大阪・関西万博開催などに思いを至らせ、「和歌山県知事表彰は、私たちのこれまでの功績を称えるものであると同時に、和歌山県の未来と一緒に創っていこうという知事からのエールであると思っている。受賞を励みとし、心新たに、より一層の努力をしていく」と力強く述べられました。

受賞者の皆さんのこれまでの本県への多大な御貢献に深く感謝申し上げますとともに、国際情勢の緊迫化や人口減少の加速化など時代の大きな転換期にある今、県では受賞者の皆さんの御協力も得ながら、前例にとらわれることなく様々な施策を実施し、すべての県民が笑顔で生き生きと暮らせる和歌山県を目指していきます。

なお、今回受賞された皆さんについては次ページに掲載しています。

■令和6年和歌山県知事表彰受賞者の皆さん

(順不同・敬称略)

地方自治の振興

市町村長や議員などとして長年にわたり地方自治の発展に尽くされた方々

奥 忠信 / 川上 渉 / 林 信良 / 深野 英昭

(4名)

保健福祉の増進

民生委員・児童委員や医師などとして長年にわたり地域の福祉や医療、保健の発展と向上に尽くされた方々

井畑 透 / 金子 雅好 / 下津 喜久男 / 谷内 孝司 / 津田 武志 / 富松 伸六

堀畑 佳久 / 八塚 政彦 / 吉村 研 / 松林 実 / 味村 正弘 / 和中 美喜夫

特定非営利活動法人子どもセンターるーも

(12名・1団体)

環境衛生の向上

生活・食品などの衛生水準の向上等を通じ、環境衛生の充実に尽くされた方

須磨 徳裕

(1名)

暮らしの安全及び向上

地域の防災、防犯、交通安全指導などを通じ、県民生活の安全を確保し、その向上に尽くされた方々

北 好男 / 北垣 順一 / 遠北 光彦 / 榎本 智信 / 北村 凉子 / 團栗 宣子

中原 雅子 / 及川 成昭 / 速水 慎一郎 / 佐伯 浩三 / 花野 靖久 / 木村 三樹夫

木本地区防災会

(12名・1団体)

教育、文化等の振興

私学振興、文化を通じた地域の振興、国際交流、青少年の育成、人権啓発の推進などに尽くされた方々

萩原 眞理 / 清水 進治 / 田中 紀子 / 山本 殖生 / 南方 世津子 / 橋本 忠巳

和歌山県中南米交流協会 / わかやま南北アメリカ協会

(6名・2団体)

産業の振興

商工業、農林業、建設業など各分野での活動を通じ、業界の振興及び育成発展に尽くされた方々

岡田 次弘 / 笹本 昌克 / 仲谷 妙子 / 花本 健 / 日置 廣志 / 前田 寛二

的場 良三 / 山崎 廣明 / 四元 弘毅 / 岡本 弘 / 北山 増男 / 楠本 哲嗣

楠本 正行 / 星田 泰弘 / 山口 太志 / 小嶋 康敬 / 吉川 幸夫 / 花岡 秀起 (18名)

ボランティア

精力的なボランティア活動により住民福祉の発展に尽くされた方々

古守 一晶

認定特定非営利活動法人健康とコミュニティを支援するなるコミ

(1名・1団体)

地域おこし

様々な分野での新たな取組により地域の活性化に尽くされた方

みやこ姫よさこい祭り実行委員会

(1団体)

●和歌山県アンテナショップ「わかやま紀州館」がリニューアルオープンしました！

2004（平成 16）年のオープン以来、和歌山県の首都圏アンテナショップとして、本県の食と観光の魅力を発信するとともに、店頭販売プロモーション等を通して県内事業者の首都圏での販路開拓を支援してきた「わかやま紀州館」（東京都有楽町）が 20 周年を迎え、リニューアルオープンしました。

6 月 7 日に開催した「わかやま紀州館リニューアルオープン記念式典」には、「わかやまパンダ大使」として、本県の自然や文化、特産品など多くの魅力を幅広く発信していただいている本県出身俳優の岡本玲さんおかもとれいをはじめ、多くの関係者の皆さんに御出席いただきました。

この度のリニューアルでは、レジカウンターや販売台に和歌山県の自然が育んだ「紀州材」をふんだんに使用し、ヒノキの香りが漂う木の温もりあふれる店内は、訪れる方々に和歌山の自然を感じていただける空間となっています。



和歌山の魅力が満載の店内

増加し、新商品は 100 種類以上を展開しています。物産コーナーでは、産地直送の新鮮な果物や和歌山自慢の梅干、梅酒、みかんジュースなどの加工品を 700 種類以上、特に梅干は常時 80 種類以上を取り揃えています。

さらに、「パンダコーナー」を新設し、アドベンチャーワールド（白浜町）のオリジナルグッズを常時販売するほか、パーク内で販売している人気商品はもちろん、わかやま紀州館でしか手に入らない限定商品も販売しています。

規模・質ともに大幅にパワーアップしたわかやま紀州館を拠点に、首都圏をはじめとする県外での商品販売力の更なる強化を図るとともに、本県の魅力を広く発信していきます。皆さん、是非お越しください。



記念式典でのテープカットの様子

大きな円形カウンターと太陽や果実をモチーフとした球体照明が特徴的なイートインコーナー「kii-Stand」を新たに設け、県産みかんや桃、南高梅等を使った 5 種類のジェラートを提供するほか、梅酒や日本酒の飲み比べもしていただけます。

また、売り場面積を以前の約 2 倍に拡大させたことで、取扱商品数も



わかやま紀州館 HP
QR コード

●「第23回わかやま環境賞表彰式」を開催しました

県では、環境保全に関する実践活動が他の模範となる個人又は団体を表彰し、その活動事例を広く県民に紹介することにより、県民の皆さんの環境保全に関する意識高揚や行動促進を図ることを目的として、2002（平成14）年度に「わかやま環境賞」を創設しました。



受賞者の皆さんと知事

23回目を迎えた今回は、5団体の方々に各賞をお贈りしました。

わかやま環境大賞を受賞された「和歌山県立熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー」は、AED（自動体外式除細動器）使用時の患者のプライバシー保護のため、廃棄傘を活用した「AEDシート」を開発し、その普及活動にも取り組んでいます。その他の受賞者の方々の取組も積極的かつ献身的に環境保全に取り組まれたものばかりであり、本県の豊かな環境を後世にもしっかりと引き継ぐため、これらの取組が模範となり、環境保全活動が幅広い世代、分野で広がっていくことを大いに期待しています。

■第23回わかやま環境賞受賞者の皆さん

（敬称略）

賞	受賞者	市町村	功績概要
わかやま環境大賞	和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズ リーダー	上富田町	廃棄傘の活用によるプライバシー保護を目的としたAEDシート開発と、関連団体との協働による普及活動
わかやま環境賞	株式会社島精機製作所	和歌山市	紙パック等のリサイクル紙を原料とした「糸」の開発とその製品の普及を通じたリサイクル率の向上
	和歌山県立向陽高等学校 理学部	和歌山市	紀ノ川下流域の環境保全のための大規模な水生生物相の生態調査研究
	和歌山大学教育学部附属 小学校3年B組	和歌山市	SDGs活動の一環として自然栽培・動物の飼育体験・地域の清掃に取り組み、その成果を校内外に発信
特別賞	和歌山県立南紀はまゆう 支援学校	上富田町	観光地のゴミ問題について学習し、実際に地域で清掃活動を実施

●米国カリフォルニア州ロサンゼルスを訪問しました

岸本知事は、5月20日から24日の日程でロサンゼルスを訪問しました。

ジャパンハウス訪問

■日 時：5月20日（月）14時00分～14時30分

■場 所：ジャパンハウスロサンゼルス

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に外務省の海外情報発信拠点であるジャパンハウスを訪問しました。

ジャパンハウスでは、企画展や日本酒プロモーションイベントの視察のほか、本県のアメリカでのプロモーションについて海部優子館長と意見交換を行いました。ジャパンハウス訪問の様子



在ロサンゼルス日本国総領事表敬訪問

■日 時：5月20日（月）16時30分～17時00分

■場 所：在ロサンゼルス日本国総領事館

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に、曾根健孝在ロサンゼルス日本国総領事を表敬訪問し、1911年創設の南加和歌山県人会の活動と2023年の第2回和歌山県人会世界大会の概要を説明したほか、ロサンゼルスでの本県の観光・物産品振興への協力依頼を行いました。



曾根健孝在ロサンゼルス日本国総領事と知事

初代南加和歌山県人会長 湯浅銀之助頌徳碑献花

■日 時：5月21日（火）9時15分～9時40分

■場 所：エバーグリーン墓地

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長や南加和歌山県人会役員等と共に、南加和歌山県人会創立者である湯浅銀之助頌徳碑への献花を行い、先人の御労苦に心を馳せました。

湯浅 銀之助（1869～1926） 紀の川市(旧粉河町)出身

1897年に雑誌「新日本」、1902年に「羅府日米」を創刊。南加在留日本人のリーダー・先覚者としての功績が讃えられ、頌徳碑が建てられている。



献花の様子

ロサンゼルスマリタイムミュージアム訪問

■日 時：5月21日（火）10時30分～11時00分

■場 所：ロサンゼルスマリタイムミュージアム

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に、和歌山県人を中心とする日本人漁師のコミュニティがあったターミナルアイランドの常設展示があるロサンゼルスマリタイムミュージアムを訪問し、太地人系クラブ会員から、本県からの移住者の当時の暮らしについて、説明を受けました。



ロサンゼルスマリタイムミュージアム訪問の様子

ターミナルアイランド訪問

■日 時：5月21日（火）11時15分～11時45分

■場 所：ターミナルアイランド

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に、和歌山県人を中心とする日本人漁師のコミュニティがあったターミナルアイランドを訪問し、移住された先人の御子孫であるターミナルアイランドーズから、ターミナルアイランドでの先人の暮らしについて説明を受け、第二次世界大戦により財産が没収され収容所に入るようになった先人の艱難辛苦の日々に思いを馳せました。



ターミナルアイランド訪問の様子

日米文化会館訪問

■日 時：5月21日（火）14時30分～15時30分

■場 所：日米文化会館

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に、日米文化会館を訪問しました。

日米文化会館では、パトリシア・ワイアット館長、高野山真言宗米国別院の松元優樹主監と、2025年1月に日米文化会館で開催される精進料理プロモーションへの協力や今後の日米文化会館での県産品PRについて意見交換を行いました。



パトリシア・ワイアット館長らとの記念撮影

羅府新報訪問

■ 日 時：5月21日（火）16時00分～16時30分

■ 場 所：羅府新報

羅府新報を訪問し、2023年の第2回和歌山県人会世界大会の取組や本県の魅力などについて、インタビューを受けました。

羅府新報

1903年4月創刊。海外で発行されている日本語新聞としては最も歴史が古く、主に渡米した日本人移民の動向、日本に関わる政治・経済動向、移民2世・3世の築き上げてきた日系コミュニティの様子を日本語と英語で発信。



取材に応じる知事

南加和歌山県人会主催夕食会

■ 日 時：5月21日（火）18時30分～20時30分

■ 場 所：Luminarias Restaurant

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に、南加和歌山県人会主催夕食会に出席しました。

夕食会では、フィッシャー敦子^{あつこ}代表はじめ36人の県人会員の歓迎を受け、参加者との交流を深めました。



参加者の皆さんとの記念撮影

和歌山フェア in カリフォルニア視察

■ 日 時：5月22日（水）10時30分～11時30分

■ 場 所：マルカイコーポレーション

谷洋一南北アメリカ諸国友好議員連盟会長等と共に（株）PPIHの子会社である、マルカイコーポレーション本社を訪問し、豊浩^{とよこういち}一社長はじめ、マルカイコーポレーションの担当者「和歌山フェア」開催のお礼を申し上げました。

また、海外での日本の製品の市場トレンドについて説明を受け、更なる和歌山県産品の輸出に向け協力することに合意しました。



視察の様子

マルカイコーポレーション

1965年3月設立。スーパーマーケットの営業、食品及び生活関連商品の開発・輸入・販売等。ロサンゼルス・サンディエゴ周辺に11店舗を展開。

2013年9月（株）パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス（PPIH）への株式譲渡により子会社化。

和歌山県立近代美術館・全米日系人博物館姉妹ミュージアム提携締結式出席

■日 時：5月22日（水）15時00分～16時00分

■場 所：全米日系人博物館

和歌山県立近代美術館（山野英嗣館長^{やまのひでつぐ}）、全米日系人博物館（アン・バロウズ館長兼CEO）の姉妹ミュージアム提携締結式に立会人として出席し、同じ移民の歴史を共有する両館が、多様性、公平、包摂のコンセプトのもと、一層の具体的な連携を深めることを確信しました。



姉妹ミュージアム提携締結式後の記念撮影

なお、和歌山県立近代美術館と全米日系人博物館の姉妹ミュージアム提携締結についての詳細は p. 12～p. 13 を御覧ください。

和歌山県主催夕食会

■日 時：5月22日（水）18時30分～20時30分

■場 所：ダブルツリーバイヒルトンロサンゼルスダウンタウン

今回のロサンゼルス訪問にあたり、お世話になった南加和歌山県人会役員や全米日系人博物館スタッフ等を招き、和歌山県主催夕食会を開催しました。

夕食会では、南加和歌山県人会のフィッシャー敦子代表はじめ、坂地純子氏^{さかじじゅんこ}、^{たけした}竹下ジェイミー氏に功労者表彰状を贈呈しました。

また、南加和歌山県人会員との固いきずなを確認するとともに、2028年に開催される第3回和歌山県人会世界大会への参加を依頼しました。



ロサンゼルス訪問でお世話になった皆さんとの記念撮影

●和歌山県立近代美術館と全米日系人博物館は姉妹ミュージアム提携を締結しました

開館当初から和歌山県ゆかりの渡米画家を収集の軸に据え、研究を重ねてきた和歌山県立近代美術館(MOMAW)と、日系アメリカ人の歴史を全米規模で収集・公開する博物館である全米日系人博物館(JANM)は、調査研究、展覧会、教育普及事業における現在の協力関係を認め合い、パートナーシップと関係性を更に深めるため、姉妹ミュージアム提携を締結しました。



(左から) 知事、山野館長、アン・バロウズ館長、ウィリアム・T・フジオカ理事長

5月22日に、全米日系人博物館(ロサンゼルス)において実施した姉妹ミュージアム提携締結式では、立会人として岸本知事と全米日系人博物館理事長のウィリアム・T・フジオカ氏が同席し、県立近代美術館の山野英嗣館長と全米日系人博物館のアン・バロウズ館長兼CEOが協定書に署名しました。

来賓として在ロサンゼルス日本国総領事の曾根健孝氏に御臨席いただいたほか、カリフォルニア州議会からは提携が行われたことについての証明書が発行されました。また、会場には和歌山県議会より5名の代表団、和歌山県国際交



全米日系人博物館の展示を見学する和歌山県訪問団

流協会の職員が同席し、更には南加和歌山県人会、太地人系クラブなど、両館の活動を支えてくださっている関係者が集まり、長期的な連携関係の第一歩を祝いました。

両館にとって、他館と姉妹提携を結ぶのは、初めてのこととなります。互いに遠く離れた場所に位置していますが、ひとつ

のコミュニティを共有し、つながっているという認識を確認しています。また各館のミッション(活動の使命)に基づいた連携関係として、この協働の意義を相互に理解し、継続的な協力関係を結びつつ対話を継続することで、現代の国際社会に欠かすことのできないトランスナショナル(国家の枠組みを超えた)な視点に立った博物館活動を展開するための土台を築くことを目指します。

具体的な活動としては、職員の交流、オンラインも活用したシンポジウムや

教育プログラムの実施、そして両館の様々なリソースや知識、技能を活用した美術と移民の歴史に関する更なる研究を、展覧会の開催も視野に入れつつ継続します。こうした一つ一つの活動を姉妹提携の関係を強めるものとして積み重ねていきます。

全米日系人博物館（JANM：ジャノム）とは

ロサンゼルスのリトル東京コミュニティに位置するスミソニアン協会公式加盟機関で、国内外でその活動を展開しています。同館は、日系アメリカ人の歴史と文化を伝える最大規模の収蔵施設であり、そこには本県をはじめ、日本各地からの資料が含まれています。また日本人であることを理由に、戦時中、基本的人権を奪われた日系人の歴史を共有することで、公民権の意義を伝えるための施設でもあります。



全米日系人博物館外観
(全米日系人博物館提供)

和歌山県立近代美術館の移民史研究

日本で5番目に開館した近代美術館でもある和歌山県立近代美術館は、活動の当初より、戦前のアメリカで活動した和歌山ゆかりの芸術家を継続的に研究してきました。近年では、和歌山の移民史に意識的に目を向け、美術の歴史をより大きなスケールで文脈化することを試んでいます。

例えば、和歌山県出身者の多くがアメリカに移住し、戦前の漁業や農業に大きな影響を与えたことが知られていますが、これらのコミュニティは芸術家のコミュニティとも不可分であり、一般的な歴史と美術史の双方において、さらなる考察を必要とするからです。特に太地町歴史資料室や和歌山大学紀州経済史文化史研究所、和歌山市立博物館ら関連する諸機関と協働し、美術から見た本県の移民史研究に取り組んでいます。



和歌山県立近代美術館外観

JANMと和歌山県立近代美術館とのこれまでのつながり

和歌山県内の連携を礎に、和歌山県立近代美術館は2022年より、JANMでの様々な調査、JANMから研究者を招いての国際シンポジウム、県内の学校とJANMをつないだオンライン授業などを実施してきました。このパートナーシップの最大の成果は、2023年の展覧会「トランスポーター 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」（9月30日～11月30日）として結実します。この展覧会は、同年10月に本県が主催した第2回和歌山県人会世界大会を記念する特別事業として開催したもので、美術館が美術作品だけでなく、多様な移民史資料をあわせて紹介した画期的な展覧会でもあり、県内外で大きな注目を集めました。



「トランスポーター 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」展(2023)の会場風景

●「世界遺産登録 20 周年記念フォーラム in 高野～次世代に受け継ぐ世界遺産～」を開催しました

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が今年で登録 20 周年を迎えました。これを記念して、世界遺産登録と同日である 7 月 7 日に、高野山大学黎明館において約 800 人が参加し、「世界遺産登録 20 周年記念フォーラム in 高野」を開催しました。

第 1 部では、世界遺産登録時にアジア初のユネスコ事務局長を務められた松浦晃一郎さんまつうらこういちろうに



講演の様子（左から、松浦さん、丹生さん、神崎さん）

「世界遺産登録 20 周年を迎えて」と題して基調講演を行っていただきました。

第 2 部では、「次世代に受け継ぐ世界遺産のいのりの心」～たぐいまれな「神道と仏教の融合した文化的景観」～をテーマに、世界遺産の啓蒙活動や地域活性化と観光促進に積極的に取り組まれている丹生都比売神社宮司にゅうこういちの丹生晃市さん、世界遺産に造詣が深い東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェローかんざきりょうへいの神崎亮平さんに講演いただきました。



パネルディスカッションの様子

その後のパネルディスカッションでは、松浦さんと神崎さんに加え、総本山金剛峯寺高野山執務公室長の藪邦彦さんやぶほうげんと高野山大学長の添田隆昭さんそえだりゅうしょうにパネリストとして参加いただき、丹生さんのコーディネートのもと、世界遺産を次世代

に受け継ぐための方法などについて意見交換しました。

県では、今年 12 月までの期間を「聖地リゾート！和歌山キャンペーン」として、世界遺産社寺等における特別拝観や限定御朱印の授与をはじめ、「令和の熊野詣」と称した熊野三山を目指す中辺路リレーウォーク、県立博物館特別展「聖地巡礼～熊野と高野」の開催（関連記事：p.18～p.19）など、県内各地で実施される特別企画の情報を発信しています。

引き続き、本県の素晴らしい財産である世界遺産の魅力を国内外に広く発信するとともに、その価値を次の世代に継承できるよう、様々な取組を進めていきます。

● 植田油脂株式会社と家庭用使用済み天ぷら油回収実証事業に係る連携協定を締結しました

県では、「サーキュラーエコノミー」の考えをいち早く取り入れ、地域の特性を踏まえた産業創出や広域的な資源循環ネットワークの構築を目指すため、2023（令和5）年10月に「わかやま資源自律経済ビジョン」を策定しました。

当該ビジョンの実現に向けた取組の第一弾として、今は捨てられてしまっている家庭用の使用済み天ぷら油を回収し、CO2削減効果の高い燃料等へと利活用する仕組みの構築を目指し、県が主体となって実証事業を行っています。



植田油脂（株）高橋代表取締役社長と知事

こうした中、本実証事業の趣旨に御賛同いただき、和歌山市、海南市及び有田市に設置した回収拠点に集積された使用済み天ぷら油の収集・運搬等に御協力いただける、植田油脂株式会社と6月11日に連携協定を締結しました。

既に、家庭用の使用済み天ぷら油の回収からその油を用いたバイオディーゼルの精製まで一貫して取り組まれている植田油脂株式会社は、豊富な経験と実績を有していることから、この度の協定締結は、県が今後の取組を進める上で大変心強いものです。

県では、地域資源循環モデルの先進地域としての地位を確立するため、「わかやま資源自律経済ビジョン」に基づき、和歌山らしさを取り入れた資源循環を通じて、産業の振興や地域の発展等につなげていきます。

協定に基づく主な役割分担

（1）県の役割

- ・家庭用使用済み天ぷら油の回収拠点の設置を推進すること
- ・回収拠点について周知広報を図ること
- ・使用済み天ぷら油の利活用について県民への啓発・周知活動を行うこと
- ・実証結果の分析に必要な情報収集 等

（2）植田油脂株式会社の役割

- ・回収拠点に集積された使用済み天ぷら油を収集すること
- ・専用ボトルの洗浄と回収拠点への補充を行うこと
- ・回収拠点から収集した使用済み天ぷら油を脱炭素の取組に資する利用用途のために、原料供給すること
- ・使用済み天ぷら油の利活用について県民への啓発・周知活動を行うこと 等



「わかやま資源自律経済ビジョン」
コンセプトイメージ図

* サーキュラーエコノミー（循環経済）：従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、廃棄物の発生抑制等を目指すもの。（環境省令和5年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書）

●企業誘致等の実績について（4月～6月）

県では、これまでビジネス環境の良さと安全で快適な生活環境といった強みを活かした「New Work × Life Style」を提案し、IT企業等の誘致を積極的に行ってきました。

本県の企業誘致等の取組について、4月～6月の実績を御紹介します。

引き続き、本県のビジネス環境と生活環境の良さを多くの企業にPRし、本県への企業誘致を進めていきます。

① MRT株式会社

MRT株式会社は、2000年に設立された東証グロス上場の企業で、医療情報のプラットフォーム提供、医療機関の開設及び運営のコンサルティング、遠隔診療・健康相談サービスの運営等を実施し、2023年には「医師確保と医療DXの実現に向けた連携協定」を本県と締結しています。

今回新たに開設する和歌山サテライトオフィスでは、自社ITシステムの開発を行うとともに、全国の拠点にある健康相談等のコールセンター事業を集約して実施する予定です。

これにより、ITエンジニア及び医療関係の有資格者の雇用が期待されます。

■企業概要

企業名：MRT株式会社
代表者：代表取締役 小川 智也 氏
設立年月：2000年1月26日
資本金：4億3,211万円
従業員数：283名（2024年2月現在）
株式公開市場：東証グロス上場
事業内容：情報サービス業（医療情報のプラットフォームの提供）

■進出概要

事業所名：MRT株式会社 和歌山サテライトオフィス
進出場所：Park Biz WAKAYAMA 2階（和歌山市八番丁9 パーク県信ビル）
雇用予定：正社員16名（全て地元雇用）（3年間）
事業内容：ITシステム開発及びコールセンター
操 業：2024年3月15日

■Park Biz WAKAYAMA 概要

所在地：和歌山市八番丁9 パーク県信ビル内
所有者：パーク建物株式会社
＊「和歌山市サテライトオフィス等開設支援補助金」
を活用して整備



Park Biz WAKAYAMA

② 株式会社PPFパートナーズ

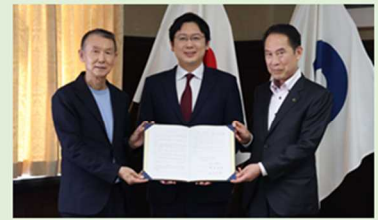
株式会社PPFパートナーズは、2015年に設立した企業で、システム受託開発やITコンサルティング、Web／ECサイト制作などのサービスを提供しています。

主力事業のシステム受託開発では、物流や在庫管理システム、勤怠管理システム等、様々な分野のシステム開発実績を有し、今回、事業拡大に対応するため、和歌山支社を新たに構えることとなりました。

和歌山支社ではシステム受託開発業務を行うほか、地元企業へのITコンサルティング事業を行う予定であり、県内のIT人材の雇用創出や人材育成、DXによる産業振興が期待されます。

■企業概要

企業名：株式会社PPFパートナーズ
 代表者：代表取締役社長 岡田 和人 氏
 設立年月：2015年7月17日
 資本金：2,500万円 従業員数：188名
 事業内容：ソフトウェア開発及び運用保守、
 SES（システムエンジニアリングサービス）



4.12進出協定調印式にて
 （左から）知事、岡田社長、尾花市長

■進出概要

事業所名：株式会社PPFパートナーズ 和歌山支社
 進出場所：サテライトオフィス「kinowa（キノワ）」（98.44㎡）
 （和歌山市湊紺屋町1-20 ワカヤマ第2富士ホテル内）
 雇用予定：正社員15名（転入雇用2名、地元雇用13名）（3年間）
 事業内容：ソフトウェア開発及び運用保守、SES（システムエンジニアリングサービス）
 操業時期：2024年4月

③ 寺本パイル織物株式会社

寺本パイル織物株式会社は、1970年代に当時毛皮織物が主流であった複写機用クリーニングブラシの人工化に成功するなど、パイル織物の伝統技術と最先端の繊維技術をもとにした製品が高く評価されており、クリーニングブラシが組み込まれた複写機向けクリーニングユニットで高いシェアを占めています。

今回、製造工程の内製化により一貫生産体制を構築することで、製品の品質向上及び製造工程の効率化を図るため、本社工場を増設する運びとなりました。

■企業概要

企業名：寺本パイル織物株式会社
 代表者：代表取締役社長 寺本 英樹 氏
 設立年月：1960年3月 資本金：1,000万円
 売上高：4億5,300万円（2023年5月期）
 従業員数：30名（正社員21名、非正社員9名）
 業務内容：工業資材用機能性織物の開発・製造・販売



クリーニングブラシ
 （ロールブラシ）

■立地計画概要

立地場所：橋本市高野口町伏原625番地
 敷地面積：4,770㎡（延床面積：4,314㎡）
 雇用予定：新規地元雇用者30名
 （正社員19名、非正社員11名（3年間））
 投資予定：約12億円（建物、設備）
 操業時期：2026年12月操業開始予定



本社工場 外観イメージ

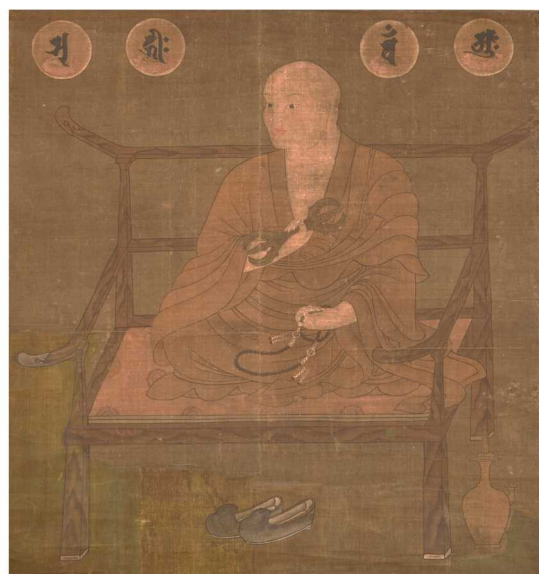
● 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 20 周年記念特別展「聖地巡礼ー熊野と高野ー」を開催中です

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は 2004（平成 16）年 7 月に登録され、今年で 20 周年の節目の年を迎えました。和歌山県立博物館ではこれを記念して、2025（令和 7）年 3 月 9 日まで、特別展「聖地巡礼ー高野と熊野ー」を開催しています。

これまでの成果を振り返るとともに、紀伊路や大辺路・伊勢路など世界遺産登録後 20 年の間で新たに見出された文化財、調査・研究の進展などに触れながら、紀州が誇る霊場の高野・熊野の魅力を御紹介します。また、今

後の世界遺産の保存と活用についても、改めて考える機会にしたいと思います。

本展覧会では、いつ来館いただいても、違った視点で高野・熊野の魅力を味わっていただけるよう、展示期間を全 5 期に分け、それぞれテーマの異なる世界遺産にまつわる名品の数々を展示しています。



紀美野町指定文化財 弘法大師像（遍照寺大師講蔵）
【第Ⅱ期展示】



和歌山県指定文化財 女神坐像
（三谷薬師堂蔵）【第Ⅱ期展示】

第Ⅱ期は、「神仏・祖師の住まう山ー高野山上・山麓の宗教文化ー」です。高野山は真言密教の聖地であり、祖師・弘法大師空海が祀られるとともに、地主神丹生明神も祀られ、神仏が共存する山として位置しています。聖地・高野山の複雑で豊饒な信仰と宗教文化を御紹介し、高野山の影響なども受けながら育まれた、高野山麓に広がる豊かな宗教文化もあわせて取り上げます。

なお、第Ⅲ期以降の展示概要は次ページを御覧ください。

＜第Ⅱ期 神仏・祖師の住まう山ー高野山上・山麓の宗教文化ー 開催概要＞

会 期 前期：8月3日（土）～ 8月25日（日）

後期：8月31日（土）～ 9月29日（日）

開館時間 9時30分～17時（＊入場は16時30分まで）

休 館 日 毎週月曜日（ただし、祝日の場合はその翌平日）

入 館 料 一般520円(420円)・大学生310円(250円) ＊（ ）内は20名以上の団体料金
＊高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料

第Ⅲ期 人・道・祈り ―紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく―

聖地・熊野へ至る道沿いにも様々な霊地・霊場があり、参詣者はそれらの寺社にも立ち寄りながら旅をしました。熊野参詣も西国三十三所観音巡礼や伊勢参詣などとも重なり合いながら、その歴史や文化が育まれてきました。紀伊路・大辺路・伊勢路など沿道の文化財とともに、紀伊半島を舞台に複雑に交錯する信仰と参詣の文化を御紹介します。

【会 期】10月12日（土）～11月24日（日）

【入館料】＊（ ）内は20名以上の団体料金

一般：1,000円（800円）／大学生：800円（600円）



重要文化財 道成寺縁起下巻（道成寺蔵）

第Ⅳ期 熊野信仰の美と荘厳 ―熊野速玉大社の神像と古神宝―

聖地・熊野に祀られる荘厳な神々。また熊野の神々に対する信仰によって奉納された宝物の数々。これらは熊野への篤い信仰を象徴的に物語ります。熊野速玉大社が誇る神像と古神宝を中心に、熊野信仰のなかで生み出された荘厳かつ美しい宝物類の数々を展示します。

【会 期】12月7日（土）～2025年1月19日（日）

【入館料】＊（ ）内は20名以上の団体料金

一般：520円（420円）／大学生：310円（250円）



国宝 古神宝類のうち桐唐草蒔絵手箱（熊野速玉大社蔵）

第Ⅴ期 蘇りの地・熊野 ―熊野本宮大社・湯峯と熊野川―

高熊野三山の一つ熊野本宮大社は、もとは熊野川の中洲に鎮座しており、雄大な河川による恵みと猛威の歴史とともに歩んできました。熊野本宮大社の歴史と名宝を、山岳修験の「擬死再生」「蘇り」という視点で取り上げます。あわせて湯峯地区や熊野川に関わる文化財についても御紹介します。

【会 期】2025年2月1日（土）～3月9日（日）

【入館料】＊（ ）内は20名以上の団体料金

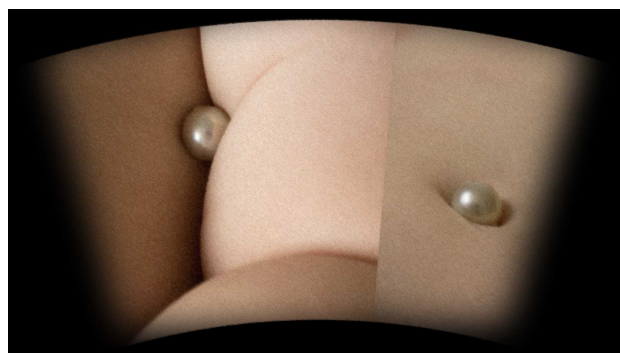
一般：520円（420円）／大学生：310円（250円）



不動明王および二童子像（東光寺蔵）

● なつやすみの美術館 14 河野愛「こともの、と」を開催中です

「こともの」——この不思議な響きの言葉は、「コト」と「モノ」でしょうか。それとも「こども」に関する何かでしょうか。美術作家の河野愛^{かわのあい}(1980-)は近年、「こともの」と題したシリーズの作品に取り組んでいます。河野自身は「異物／異者」と表記される古語として、この言葉を選んでいきます。乳児の肌のくぼみに真珠を挟んだ様子を撮影した一連の作品は、その柔らかな肌の心地よい感触と同時に、真珠という異物が肌の合間に存在する違和感、クローズアップによる距離の測れなさ、そして怖さをも見る者に感じさせます。



河野愛《こともの foreign object(clock)》2024
インスタレーション 作家蔵



河野愛《0》2024 ネオン看板 作家蔵

河野が「こともの」を制作のテーマとしたのは、2019年末、コロナ禍に見舞われる直前に出産し、子育てが始まったことがきっかけでした。見えないウイルスという異物が世界を脅かし、外出が極度に制限される中、河野は生まれたばかりの乳児と向き合う日々を送ることになります。自分の身体の中から生まれ出た存在ながら、コミュニケーションの難しい異者である乳児との生活は、その状況も相まって様々な困難を伴いましたが、その結果、河野に「こともの／異物／異者」という存在に向き合う視点を与えることになりました。

ところで、美術館には体系立てて集められた様々なコレクションが存在しますが、収蔵された作品は過去の「遺物」でもあり、作品同士は互いに「異物／異者」として存在します。それらを時代やジャンルに縛られずに自由に出会わせることで、美術と美術館の楽しみ方を様々な視点から紹介する場として設定してきたのが、2011年より継続するシリーズ展「なつやすみの美術館」です。

14回目となる今回は、河野愛を本展の招聘作家に迎え、美術館のコレクションに「こともの」である河野の作品を加えることで、また河野自身が美術館のコレクションという「こともの“と”」と出会うことで、美術館を訪れる人にとっての新たな「こともの」との出会いの場を生み出したいと思います。

<開催概要>

会 期 9月23日(月・祝)まで

開館時間 9時30分～17時(*入場は16時30分まで)

休 館 日 毎週月曜日(祝休日の8月12日、9月16日、9月23日は開館)
8月13日(火)、9月17日(火)

入 館 料 一般520円(410円)・大学生300円(260円) * () 内は20名以上の団体料金
* 高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の留学生は無料

● 夏期企画展「和歌山フェイクアワードー考古学におけるフェイクの世界ー」を開催中です

県立紀伊風土記の丘では、夏期企画展「和歌山フェイクアワード」を開催しています。

考古資料には、様々な“フェイク＝実物ではないもの”が作成されました。フェイクには、偽物、模造品、模型、模倣品、贋作^{がん}、レプリカといった様々な種類があり、それぞれの持つ意味も異なります。

フェイクの始まりは先史時代までさかのぼり、当初は祭祀の道具や身代わりであり、本物とは異なる素材で作られました。また、産業の発達とともに、陶磁器の模倣品や写しが盛んに生産されました。

その後、近代以降には、骨董的価値の追求から考古学の専門家たちの目を欺くほど精巧な贋作が作られ、その一部は現在も伝えられています。

一方、博物館展示や学習用教材では、理解の促進やハンズオンとしての利用を目的にレプリカや模造品が用いられ、近年では復元や記録の観点からも高精細レプリカに価値が見出されています。

本展示では、フェイクの歴史を示し、製作技術や製作背景について実物と比較しながら紹介するほか、模造や3次元計測、型取り、復元などによる、最新のフェイク技術と活用事例を御紹介します。

なお、製作された背景や活用事例を踏まえ、来館者の皆さんの投票をもとに優れたフェイク「和歌山フェイクアワード」を決定します。皆さん是非お越しくください。



左：大日山35号墳出土
両面人物埴輪(重要文化財) 右：実物大立体パズル
ハンズオン展示・復元体験



太田・黒田遺跡出土
銅鐸レプリカ



このレプリカは和歌山市内の全小学校に保管されており、これまでいつ、誰が製作し配付したのか不明でしたが、本展示に係る調査の過程で、レプリカの一部に、当時発掘に関わった森浩一氏（同志社大学名誉教授）による説明文が発見され、同氏による配付であったことが明らかになりました。

<開催概要>

会 期 9月8日(日)まで

(和歌山フェイクアワード投票期間：8月25日(日)まで)

開館時間 9時～16時30分(入館は16時まで)

休 館 日 毎週月曜日

(月曜日が祝日又は休日の場合は次の平日＝8月13日(火))

入 館 料 一般190円(150円)・大学生90円(70円) * () 内は20名以上の団体料金
* 高校生以下、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方、県内在学中の外国人留学生は無料

●「企業版ふるさと納税」で和歌山県の取組を応援しませんか？

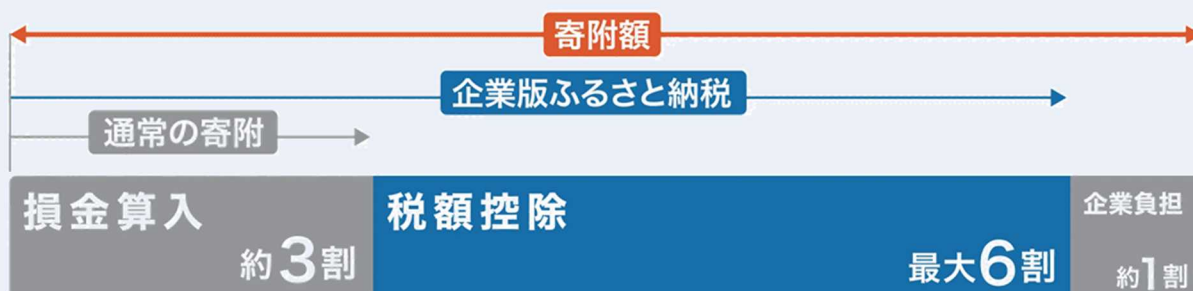
企業版ふるさと納税とは、企業の皆様が寄附を通じて地方公共団体の地方創生プロジェクトを応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられるほか、様々なメリットがある仕組みです。

和歌山県では、この制度を活用し県の地方創生の取組を応援していただける企業の皆様を募集しています。

企業版ふるさと納税とは

- 「企業版ふるさと納税」は、国が認定した地域再生計画に位置付けられる**地方公共団体の「地方創生プロジェクト」**(*)を応援するために企業様が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。
- *和歌山県の「地方創生プロジェクト」(2024年度)は次ページに掲載しています。
- 損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)を含め、最大で**寄附額の約9割にあたる法人関係税が軽減**され、実質的な企業様の負担が約1割まで圧縮されます。

【税軽減のイメージ】



*本制度を活用できるのは、**和歌山県外**に本社がある企業様のみです。

*1回当たり**10万円以上**の寄附が対象です。

*寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

企業様のメリットについて

- 社会貢献に取り組む企業としての**PR効果**が期待できます！
- 企業様と県との間で、**新たなパートナーシップ構築**の可能性が広がります！
- 県をはじめ、地方創生プロジェクトに関わる多様な主体との新たな関係構築の可能性が広がります！

詳細はこちらから

⇒<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020200/d00204504.html>

お問い合わせ先：和歌山県 地域振興部 地域政策局 地域振興課 地域支援班

TEL：073-441-2426



2024年度和歌山県のプロジェクト一覧

成長志向起業家の育成・支援による地方創生

(概要)

「起業家が起業家を生み育てる」をコンセプトに、成功した起業家が次の起業家を育成・支援

(事業年度)

2022年度～2024年度



大阪・関西万博を見据えた「新たな旅のスタイル」普及・促進

(概要)

デジタル・アウトドアを主眼にした「新たな旅のスタイル」の普及・促進

(事業年度)

2022年度～2024年度



ポストコロナ時代の若者就職支援による 県内定着・移住促進

(概要)

高卒就職者の県内定着や大学生・第二新卒者等のUターン就職による本県への移住を促進

(事業年度)

2022年度～2024年度



わかやま地域の賑わい総合対策プロジェクト

(概要)

ワーケーションの受け入れ強化や、多様なニーズに応じた移住・定住に取り組む

(事業年度)

2020年度～2024年度



最南端から最先端へ！民間ロケット発射場を 核とした地方創生プロジェクト

(概要)

ロケットの打上げ応援イベントの実施や企業と連携したプログラミング教育による高度人材の育成

(事業年度)

2022年度～2024年度



明日へつなぐ持続可能な農林漁業の実現に 向けた好循環創出プロジェクト

(概要)

地域の魚介類、ジビエを地域で消費・利益を還流させる生産と消費の好循環を創出し、農林漁業と地域の持続可能性を高める

(事業年度)

2023年度～2024年度



教育旅行向けほんまもん体験事業者等支援

(概要)

体験型観光事業者の受入体制の強化、安全施策等に資する設備・備品の設置や県外学校等に対する誘客・持続可能な受入環境整備の促進

(事業年度)

2023年度～2024年度



和歌山こどもまんなか社会推進プロジェクト

(概要)

多子世帯向け保育料等の支援や子供食堂への支援等を行い、子育てしやすい環境づくりやこどもの居場所づくりなど、こどもにやさしい社会づくりに取り組む

(事業年度)

2023年度～2024年度



「空飛ぶクルマ」の運航実現に向けた取組

(概要)

「空飛ぶクルマ」の運航実現に向け、離着陸場の適地調査や県内の社会受容性向上のために、県民や事業者に向けた情報発信、実証実験に取り組む

(事業年度)

2023年度～2024年度 (*)



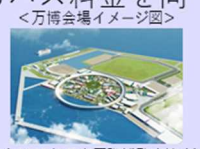
大阪・関西万博教育旅行参加支援

(概要)

和歌山県内の小中学生が、学校行事の一環として万博に訪れる機会を持てるよう、万博入場料及び地域ごとに差違のあるバス料金を同額の負担とすべく支援を行う

(事業年度)

2024年度



(提供：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)

(*)出典：経済産業省ウェブサイト (https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/181220uamroadmap.html)

●ふるさと和歌山応援寄附（ふるさと納税）の御案内

ふるさと和歌山応援寄附は、「ふるさと和歌山を大切にしたい」、「和歌山を応援したい」という思いを具体化するための制度です。これまで多くの御寄附と力強い応援メッセージを頂いております。

県では、ふるさと和歌山応援寄附を「世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の保全や活用」や「子育て支援の充実」、「がん対策の充実」などの分野で活用させていただいております。

御寄附につきましては、申出からクレジット決済等までを同時に行うことが可能なふるさと納税総合サイトを御利用ください。

また、和歌山県外にお住まいで 13,000 円以上の御寄附を頂いた方には、和歌山県優良県産品（プレミアム和歌山）として県が認定した商品等のうち、事業者の協力を得て選定した返礼品をお選びいただけます。和歌山県が誇る優良産品を是非御堪能ください。

ふるさと和歌山応援寄附についての詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」に掲載しています。

これからも、ふるさと和歌山応援寄附に御協力いただきますようお願い申し上げます。

ふるさと和歌山応援サイト(和歌山県へのふるさと納税)

「ふるさと」と聞いてみなさんが想像するものは何でしょう。
和歌山県では、「元気な和歌山」を創造していくため、さまざまな施策の推進に取り組んでいます。
ぜひ、皆様も寄附を通じてふるさと和歌山を応援してください。



ふるさと和歌山応援サイト

検索

各ポータルサイトのQRコードはこちら



ふるさとチョイス



ふるなび



ANAのふるさと納税



ふるラボ



JALふるさと納税



さとふる

★お問合せ・申込窓口★

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目 1 番地

総務部総務管理局税務課

担当 大亦、山中、西浦

電話 073-441-2186（直通）

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

★お問合せ窓口★

〒102-0093

東京都千代田区平河町 2-6-3

都道府県会館12階

和歌山県東京事務所

担当 松場

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

●ふるさと和歌山応援寄附を活用して行う県の取組

- ①生涯スポーツ・文化の振興
- ②こどもたちの教育環境の充実【お礼の品なし】
- ③がん対策の充実
- ④犬・猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援
- ⑤世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用
- ⑥南紀熊野ジオパークの推進
- ⑦地元企業への就職を促進する奨学金返還支援
- ⑧学校図書館や県立図書館の蔵書の充実
- ⑨わかやまの美しい海づくり
- ⑩わかやまの文化財の保護
- ⑪大切なふるさとの森を守り育てる
- ⑫わかやまのナショナル・トラスト
- ⑬わかやまの農林水産業の振興
- ⑭子育て支援の充実
- ⑮大阪・関西万博教育旅行参加支援



皆様からいただいた寄附金の成果につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」などで報告させていただきます。

■寄附金控除の手続きについて（ワンストップ特例申請の御案内）

地方公共団体への寄附（ふるさと納税）については、税制上の優遇措置があります。寄附金額のうち、自己負担額の2,000円を超える部分について、一定限度額まで、原則として所得税（復興特別所得税を含む）及び個人住民税から全額が控除されます。

寄附金控除を受けるには、所得税の確定申告又はふるさと納税ワンストップ特例制度の申請が必要です。

*ワンストップ特例申請の場合は、所得税の軽減相当額を含め、個人住民税からまとめて軽減を受けることになります。

和歌山県では、ワンストップ特例申請の手続きを、より簡単・便利に行えるよう完全オンラインでのサービスを提供しています！

マイナンバーカードをお持ちの方は、紙のワンストップ特例申請書・確認書類の提出は不要となり、「自治体マイページ」から即座に申請を完結させることが可能です。

- *申請にはデジタル庁提供のマイナポータルアプリが必要です。
- *自治体マイページとは、ふるさと和歌山応援寄附に寄附したふるさと納税に関する情報を一元管理できる寄附者個人の専用ページです。

（自治体マイページは、株式会社シフトセブンコンサルティングが提供するサービスです。）



寄附金控除の手続きやオンラインワンストップ特例の詳細については、「ふるさと和歌山応援サイト」内「寄附金税制について」のページを御確認ください。



●ふるさと和歌山応援寄附「令和5年度寄附金活用事業実績報告」

ふるさと和歌山応援寄附の取組に多数の皆様の御理解と御賛同を頂き誠にありがとうございます。

おかげをもちまして、令和5年度は3,914名の方から約1億1,946万円の温かい御寄附を賜りました。

また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は、令和6年度以降の事業に活用させていただきます。

なお、令和4年度に頂いた寄附金は、次のとおり令和5年度事業に活用させていただきましたので御報告申し上げます。(残りの寄附金については、令和6年度以降の事業に活用させていただきます。)

南紀熊野ジオパークの推進

【寄附金の活用額 1,639千円】

南紀熊野ジオパークセンターが行う調査研究活動に活用させていただきました。



サンゴの調査研究活動



調査中の様子

がん対策の充実

【寄附金の活用額 4,079千円】

がん治療に伴い必要とする医療用補整具の購入費に関する支援や、若年のがん患者が自宅で療養する際の在宅サービス利用料に関する支援など、がん患者の方の支援のために活用させていただきました。

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の保全や活用

【寄附金の活用額 7,457 千円】

高野・熊野の参詣道をはじめとする世界遺産の維持管理や修繕、災害復旧のために活用させていただきました。



高野参詣道町石道の被災状況



復旧後の状況

県立図書館の蔵書の充実

【寄附金の活用額 6,613 千円】

和歌山県立図書館の蔵書充実の全事業費 62,922 千円の一部として活用させていただきました。

なお、本事業全体で、県立図書館本館（和歌山市）は 11,399 冊、紀南分館（田辺市）は 4,453 冊の蔵書を充実させました。

大切なふるさとの森を守り育てる

【寄附金の活用額 4,323 千円】

松くい虫被害防止対策として、美浜町煙樹ヶ浜での薬剤の地上散布を行うために活用させていただきました。



薬剤散布の様子



煙樹ヶ浜の松林

わかやまの農林水産業の振興

農林水産試験研究の充実 【寄附金活用額 2,256 千円】

農林水産業者の所得向上や地域の活性化につながる新技術の開発に活用させていただきました。

次世代農業リーダー育成事業 【寄附金活用額 17,509 千円】

幼少期から就農に至るまで継続的に農業教育を実施するとともに、地域農業の発展を目指す青年農業者等の支援に活用させていただきました。

○青年リーダー育成支援【寄附金活用額のうち、5,073 千円】

将来あるべき地域農業の姿(将来ビジョン)の立案と、その実現に向けた青年農業者等の取組を支援する補助事業の財源として活用させていただきました。

令和5年度は、日高地方における生にんにく産地の拡大を目的として、日高町で作業体系の機械化を進める事業を採択し、必要となる設備や機器の整備を支援しました。



にんにく定植機

○農業教育・研究施設のパワーアップ【寄附金活用額のうち、12,236 千円】

農林大学校、就農支援センター、農業試験場において、教育・研究用の施設機器整備に活用させていただきました。



教育・研究環境充実のために導入した施設・機器

○海外農業研修支援【寄附金活用額のうち、200 千円】

海外の農業技術と異文化に触れることで国際感覚を持った視野の広い農業者を育成するため、就農を控えた青年を対象とした海外研修費用の一部を支援させていただきました。

犬・猫の殺処分ゼロを目指す活動への支援

○不幸な猫をなくすプロジェクト 【寄附金の活用額 6,653 千円】

不幸な命をなくすために地域猫対策を実施してくださっている方への支援として、地域猫の不妊去勢手術（令和5年度実績 1,799 匹）の費用の一部として活用させていただきました。不妊去勢手術の際に目印のため耳先をV字にカットされた猫は、元の場所に返され地域猫として1代限りの命を全うします。

なお、猫の殺処分数は、プロジェクト開始前と比較し、2,478 匹（平成27年度）から 239 匹（令和5年度）と8年間で90%減少しています。



不妊去勢手術の様子



耳先をV字にカットされた地域猫

地元企業への就職を促進する奨学金返還支援

○和歌山県若手中核人材確保強化【寄附金の活用額 2,501 千円】

本事業に参画している県内企業に研究開発職・技術職として、定着した方への奨学金返還支援に活用させていただきました。



合同企業面接会の様子

こどもたちの教育環境の充実

【寄附金の活用額 31,222 千円】

県立高等学校や県立特別支援学校の学習用機器等の整備のために活用させていただきました。



教育環境充実のために購入した備品等

わかやまの文化財の保護

【寄附金の活用額 2,874 千円】

県内の文化財の保存や整備のために活用させていただきました。



【国指定名勝】
粉河寺庭園の整備（紀の川市）



【県指定有形文化財（建造物）】
東田中神社境内社旧竹房神社本殿の修理
（紀の川市）

わかやまの美しい海づくり

【寄附金の活用額 5,189 千円】

県内の海水浴場の整備や海岸保全施設の修繕に活用させていただきました。



整備中の白良浜海水浴場（白浜町）



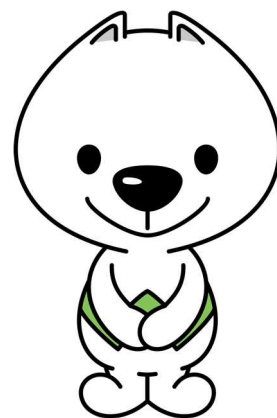
整備後の状況

- * 「子育て支援の充実」、「生涯スポーツ・文化の振興」、「わかやまのナショナル・トラスト」を用途として指定いただいた寄附金については、ふるさと和歌山応援基金に積み立て、令和6年度以降に活用させていただきます。

本年も引き続き、ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援していただきますようお願い申し上げます。

制度の詳細につきましては、「ふるさと和歌山応援サイト」を御覧ください。

また、寄附申出時に公表に同意していただいた方の応援メッセージ等も掲載していますので、併せて御覧ください。



ふるさと和歌山応援サイト

検索

URL : <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/010500/furusato/>

*** 最新の情報は、主催者等へお問い合わせください。**



イベント情報（8月～10月）

開催日・時期	行事名	場所	問い合わせ先
8月1日	鹿島神社奉納花火祭	南部海岸 （みなべ町）	鹿島神社 0739-72-4573
8月3日	第56回紀州おどり 「ぶんだら節」	和歌山城周辺 （和歌山市）	和歌山市紀州おどり 実行委員会事務局 073-435-1234
8月11日	第42回紀文まつり	有田市役所周辺 （有田市）	有田市産業振興課 0737-22-3624
8月12日 8月13日	熊野徐福万燈祭 （第62回新宮花火大会）	8/12 徐福公園 8/13 熊野川河川敷 （新宮市）	新宮市商工観光課 0735-23-3357
8月14日	下駄市	黒江川端通り （海南市）	下駄市実行委員会 073-483-5220
8月23日	二河の火祭り	三光山金剛寺 （那智勝浦町）	那智勝浦町観光企画課 0735-52-2131
9月26日	日前神宮・國懸神宮例大祭	日前神宮・國懸神宮 （和歌山市）	日前神宮・國懸神宮 073-471-3730
10月1日	廣八幡宮秋祭り	廣八幡宮 （広川町）	廣八幡宮 0737-62-2371
10月4日 10月5日	御坊祭	小竹八幡神社周辺 （御坊市）	御坊市商工振興課 0738-23-5531
	弁慶まつり	闘鶏神社他 （田辺市）	弁慶まつり実行委員会 0739-22-5064
10月15日	伊太祁曽神社例祭	伊太祁曽神社 （和歌山市）	伊太祁曽神社 073-478-0006
10月下旬	梧陵まつり （稲むらの火祭り）	稲むらの火広場他 （広川町）	広川町地域振興課 0737-23-7764

自然・風物情報（8月～10月）

時期	自然・風物名	場所	問い合わせ先
8月上旬	梨狩りオープン	各観光農園 （かつらぎ町）	かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
8月上旬	ぶどう狩りオープン	有田巨峰村 （有田川町） 各観光農園 （かつらぎ町）	有田巨峰村 0737-32-4484 かつらぎ町観光協会 0736-22-0300
9月中旬	極早生温州みかん 初出荷	有田市、田辺市	JA ありだ 0737-53-2311 JA 紀南 0739-23-3450
9月下旬	ススキの見頃	生石高原 （紀美野町、有田川町）	紀美野町産業課 073-489-5901 有田川町商工観光課 0737-22-4506
9月	わかしらす天日干し （秋しらす）	和歌浦漁港 （和歌山市）	海草振興局農業水産 振興課 073-441-3385
10月上旬	コスモスの見頃	鷺ヶ峰コスモスパーク （有田川町）	有田川町商工観光課 0737-22-4506
10月中旬	アシアカエビの水揚げ	雑賀崎漁港、和歌 山北漁港、海南市 漁港 （和歌山市、海南市）	海草振興局農業水産 振興課 073-441-3385
10月中旬	アサギマダラ飛来	西山アサギマダラの谷 （日高町）	日高町企画まちづく り課 0738-63-3806
10月下旬	アサマリンドウ見頃	清川天寶神社 （みなべ町）	みなべ観光協会 0739-74-8787

～編集後記～

今年も梅雨が明け、猛暑の季節となりました。いつのころからか「災害級の暑さ」、「殺人的な暑さ」という言葉が生まれ、今やすっかり定着してしまいました。いずれにしても、暑さはこれからが本番です。くれぐれもお体をお大切にとお祈り申し上げます。

さて、毎年6月には、関西各地の和歌山人会の総会が開催され、今年も知事室長と共に私も出席させていただきました。2年目ともなると、各県人会の役員の皆様とも親しくお話をさせていただき、毎回、楽しい時間を過ごさせていただいております。

その中のある県人会の総会で、またまた、奇跡的な出会いがありました。旧龍神村の御出身のある方が私の席にお越しになり、「小学生のころ、津井田という先生に担任をしてもらった。その先生の自宅が印南にあり、遊びに行ったことがある。」とのお話。その方の年齢から計算すると、今から約60年前、昭和40年頃のこと。30kmほどの距離がある舗装もされていない道を、小学生が自転車で小旅行されたというのです。

そのお話を聞き、私の叔父が教員をしていたこと、そして、若い頃、龍神村内の学校に勤めていたことを思い出しました。そこで、フルネームで叔父の名前をお伝えしたところ、そのとおりだと仰るのです。となれば、その方が遊びに行った家というのは、私の実家。このような偶然があるのかと、大変驚きました。

後日、叔父にも、このお話を伝えたと、60年前の話を昨日のことのよう、その方のフルネームや学校での様子を覚えているのです。これにも大変驚きました。

このような奇跡的な出会いに恵まれ、いつも温かく迎えていただける県人会の皆様に本当に感謝いたします。

今回も最後まで御覧いただき、ありがとうございました。

知事室 秘書課長 津井田 一陽



★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんでいただけますので、是非ご覧ください。

和歌山だよりに対する御意見・御感想をお聞かせください。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報を御提供ください。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp



県ホームページ
QRコード



ふるさと和歌山
応援サイト QRコード

* 個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。



2024年（令和6年） NO.183

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2026